



BHUTAN

学校名：群馬県立桐生女子高等学校

氏名： 田中 隆志

[担当教科：地理歴史科]

- 実践教科等：世界史A(3単位)
- 時間数：2時間
- 対象：高等学校2年生
- 対象人数：41人

[1] 単元名

ブータンを通して、「相互依存の世界」の中で、日本人は外国とどのように接していけばよいのか

[2] 教材観

本授業は、平成25年度JICA海外職員研修事業（外務省、文部科学省、都道府県教育委員会・教育庁後援）の研修プログラムの一環として実施するものである。

今回取り上げるブータンについては、歴史教科書での扱いは多くはない。植民地時代にイギリスがインド支配を強めていく中で、北にある中国の清に対する防衛ライン（緩衝国）として支配下に組み込んでいったことが、若干触れられている程度である。

しながら私は、平成25年度JICAの海外職員研修事業で、実際に10日間ブータンを訪問する中で、この国が、実に多くの歴史的特殊性を有した国だという事実を伺い知ることができた。つまり①原初的なガウタマ＝シッダ＝ルタの思想を色濃く残すチベット仏教を世界で唯一国教にした国、②歴史的に中華人民共和国やインド・イギリスなどとの力の均衡で国家の枠組みを維持してきた政治的緩衝国、さらには③1990年から多くのネパール系難民を発生させ国連、世界銀行などから非難を受けている国、④国王によるトップダウンによるきわめて特異な民主化を断行した国。⑤GNH(国民総幸福量)を政策ビジョンとして掲げ、国際政治に大きな影響力を与えている国というさまざまな面をもつことを知った。

したがって私は、このブータンを研修プログラムの一環としての授業で実践する中で、より丁寧に生徒に分析、考察させていくことが、仏教思想、国と国との関係、マイノリティの問題、民主化のプロセス、国際社会のあるべき姿など、さまざまな点に気づかせることにつながるのではないかと考えた。そのため研修の中で学んだ、模造紙や付箋を使ったグループ学習によるワーキング形式で生徒たちに学ばせたいと考えた。とくに本年度、世界史Aは必修単位の2単位に対して、3単位の履修時間を設定している。そのため、通常の世界史授業の指導時間を担保した上でも、こうした課題設定学習をすることは十分可能である。

当初、貴重な授業時間を活用することや、こうした学習形態を授業の中で行うことに対しては不安もあり、私はこのような授業実践を行うか否か、迷いがあった。しかしまず第一に近年、全教科科目を通じて行うべきとされる「言語活動の充実」、「ESD（持続可能な社会づくり）教育」への効果、将来的な小論文の作成スキルの醸成といった「長期的にみた場合の大きな副次効果」などが期待できると考えた。また第二に、2011年3月11日の東日本大震災の災禍を経験した日本では現在、「日本が、世界の国々と相互依存の関係にあるのだという認識」が広がりを見せている。そうした中で、外国との接し方において、日本に足りないものを謙虚に学び、その国に不足するものを支援するという相互支援という思考法を生徒にトレーニングする意義も大きいと考えた。そのためこのような実践を行うことにした。

[2] 単元の目標

- ・ 仏教思想とはどういうものか、国家と国家との関係、マイノリティと国家との関係、民主化のプロセス、国際社会のあるべき姿など、歴史学習の中ででてくる多くの普遍的な課題について、生徒に主体的に考える機会を与える。
- ・ 現在、「日本が、世界の国々と相互依存の関係にあるのだという認識」が広がりを見せている。そうした中で、外国との接し方において、日本に足りないものを謙虚に学び、その国に不足するものを支援するという相互支援という思考法を生徒にトレーニングする。

〔3〕ESD（持続可能な社会づくり）の視点

多様性	相互性	有限性
公平性	連携性	責任性

〔4〕単元の構成

時限	本時のねらい、テーマ	学習活動・学習内容	使用教材	評価の観点と方法
1 ・ 2	1 授業の主旨確認	<ul style="list-style-type: none"> ・主旨の一つ目が、外国との接し方において、日本に足りないものを謙虚に学び、その国に不足するものを支援するという相互支援という思考法のトレーニングにあったことを確認する。 ・ブータンを通して、仏教とはどういうものか、国家と国家との関係、マイノリティと国家との関係、民主化のプロセス、国際社会のあるべき姿など、歴史学習の中にでてくる多くの普遍的課題をすこしでも考えてもらうためだったことを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・PowerPointで東日本大震災発生後の外国の日本への対応を見せる。 ・PowerPointでブータンを通して学べる歴史的課題の例に触れる。 	傾聴する態度
	2 プレゼンのローカルルール確認	<ul style="list-style-type: none"> ・「はじめます」でスタート、「終わりにします」で終了というルールや、各班の発表を15分以内で行うことなどのローカルルールを確認する。 ・「主張」の適切さ、プレゼンの工夫、説得力などを、あらかじめ配布した評価シートで他の班の生徒たちにも相互評価させることを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価票の配布。 ・聞き取りプリント 	<ul style="list-style-type: none"> ・傾聴する態度 ・評価シート
	3 各班の発表	<ul style="list-style-type: none"> ・各班のプレゼンを行わせる。 ・他の班のプレゼンの際には、聞き取りプリントに、とくに印象に残った点を1つ以上かく。 	・	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼン力 ・聞き取りプリント ・評価シート
	4 まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・「相互依存社会」の中での外国のとらえ方については、是々非々で、お互いに 		

		学びあい、支えあうという姿勢であるということを確認する。 ・評価シートと聞き取りプリントの回収		
--	--	--	--	--

〔5〕授業の詳細

1 限：ブータンとその6分野についての概観

まず生徒を機械的に整番によって6～7人の班に分け、机についてもグループ学習の形態にシフトさせた(これ以降、すべての活動がグループワークである)。そのうえで、次の時間から、歴史的特殊性をもつブータンについて、班別にテーマを決めてワーキング方式で考察してもらって予告した。

その上で、本時の PowerPoint を使ったブータンの位置の概観、6 分野についての教師によるレクチャーを行い、最後に、各班にその6 分野からテーマを選んでもらうことを予告した。教師がレクチャーしたのは、建国以来の歴史(政治)・自然・生活文化・教育・医療・信仰の6 分野についての基本情報である。

なお教師が基本情報のレクチャーを行った際、生徒には白紙の用紙を配布し、ペンでそこに六分割するラインを引かせ、メモ用紙として使わせた。事後の情報整理学習のための予備知識として、全分野の基礎情報が必要だと考えたためである。もちろんレクチャーの中では、①原始的なガウタマ=シツダ=ルタの思想を色濃く残すチベット仏教を世界で唯一国教にした国、②歴史的に中華人民共和国やインド・イギリスなどとの力の均衡で国家の枠組みを維持している政治的緩衝国、さらには③1990 年から多くのネパール系難民を発生させ国連、世界銀行などから非難を受けている国、④国王によるトップダウンによる民主化を断行した国。⑤GNH(国民総幸福量)を政策ビジョンとして掲げ、国際政治に大きな影響力を与えている国というさまざまな面をもつことを生徒に示した。

2 限：班ごとのテーマ決め、ブータンの「よい面」についての情報抽出と情報整理①

まず前時の教師のレクチャーをもとに、各班ごとに、自分たちの取り扱うテーマを決定させた。その上で、模造紙、マジック、輪ゴム、さらに各テーマの「ブータンの良い面、課題点、その他を示す自作カード(L判のもの数十枚ずつ)」をシャッフルしてそれぞれの班に配布して、「よい面と課題点を示すカード」に仕訳をさせた(情報抽出)。なおその作業にあたっては、特定のものに作業が集中しないように、作業をシェアして行うよう指示をした。

また次の段階で、模造紙の目立つところに「分野名」を書き、まわりに「よい面を示すカード」に関連のあるものを近くに配置し、それらを線で囲むなどグルーピングすること。またその周りにタイトルやテキスト、イラストを書くなどして、「何がよい面なのかを伝えるためのキャラクターマップ」を作るよう作業の指示を出した。作業については、グループワークだったので司会役のような人を決めて、話し合いをすすめながら行うように指示を出した。また後日のプレゼンによって自分たちの班が扱った分野についての「ブータンの良い面」が明確に伝わるようなまとめ方をするように指示を出した(情報整理)。また適時、机間巡視をして生徒から質問を受け、コメントしたり、作業の助言をした。

3 限：ブータンの「よい面」についての情報抽出と情報整理②

班ごとに、模造紙作業の進捗や、完成度に差があったが、多くの班で前向きな取り組みがおこなわれた。そして模造紙上のキャラクターマップ作成を軸とした情報整理が進められた。

4 限：ブータンの「よい面」についての情報整理内容のシェア①

班ごとに、前時までで作成した模造紙を使った情報整理内容を、全員の前でプレゼンさせた。発表にあたっては、「はじめます」でスタート、「終わりにします」で終了というルールや、各班の発表を最大10分で行うことなどのローカルルールを確認し、6班中、4つの班の発表を行わせた。また情報整理の形式(プレゼンの仕方)、情報整理の内容の精度について相互評価させ

るために、評価票を全員に配布して、それぞれの発表が終わるごとに評価票への記入を行わせた。6班のうち、時間の都合で4班の発表にとどまった。

5 限：ブータンの「よい面」についての情報整理内容のシェア②、整理した情報の焦点化

前時と同様の流れで、残る2班にプレゼンを行わせた。

すべての班の発表が終わったところで、「情報整理の上でのポイントが絞られていない課題」が見いだされた。そのため、各班にはさらに「よい面を焦点化するための作業」を行わせ、その結果を各班の代表者に発表させた。つまりまず A3 サイズの画用紙、付箋紙を配布し、一人3枚ほど「各分野についてのよい面」を出させて、同じような内容のものを1つにグルーピングさせるなどして、それをまとめさせた。付箋紙を使ったブレーンストーミングによる情報整理である。そして「そのまとめたもの」をもとに各グループで代表者を決めさせ、短時間で発表させた。

6 限：ブータンの「課題点」についての情報抽出と情報整理①

班ごとに、模造紙作業の進捗や、まとめ方の精度には「差」があったが、おおむね模造紙上のキャラクターマップ作成を軸として、情報整理が進められた。なおこのような情報整理の作業は2度目であったため、「よい面」について情報整理を行わせたときよりも、効率的に行われるようになった。またイラストなども手書きのものも増え、様々な工夫も行われるようになった。

7 限：ブータンの「課題点」についての情報整理内容のシェア①

班ごとに、前時までに作成した模造紙を使った情報整理内容の発表を、全員の前で発表させた。発表にあたっては、「はじめます」でスタート、「終わりにします」で終了というルールや、各班の発表を最大10分で行うことなどのローカルルールを確認して、4つの班の発表を行わせた。また情報整理の形式(プレゼンの仕方)、情報整理の内容の精度について相互評価させるために、評価票を全員に配布して、それぞれの発表が終わるごとに評価票への記入を行わせた。6班のうち、時間の都合で4班の発表にとどまった。

8 限：ブータンの「課題点」についての情報整理内容のシェア②、整理した情報の焦点化

前時と同様の流れで、残る2班に発表を行わせた。

そして「5限で行った焦点化」が有効と考えられたため、ここでも、各班にはさらに「課題点を焦点化するための作業」を行わせ、その結果を各班の代表者に発表させた。つまり A3 サイズの画用紙、付箋紙を配布し、一人3枚ほど「各分野についてのよい面」を出させて、同じような内容のものを1つにグルーピングさせるなどして、それをまとめさせた。そして「そのまとめたもの」をもとに各グループで代表者を決めさせ、短時間で発表させた。

9 限：4限～8限までの「情報整理」と、「整理した内容の焦点化」のワーキングを踏まえた、ブータンとの関わりについての「提案」検討

この時間には、1限～8限までのワーキングの中で、整理をすすめてきた「ブータンのよい面と課題点」についての情報に基づき、「今後、日本人はブータンに対して、どのようにかわっていきべきかの提案」を各班に検討させた。ただしここでは、これからの日本に必要となる「外国との接し方において、日本に足りないものを謙虚に学び、その国に不足するものを支援するという相互支援」というコンセプトで「提案」を検討させた。

つまり日本人は、ブータンから何を学ぶべきか、またブータンにどんな支援をしていきべきかの提案を検討させた。なおこの際にも、各班に A3 サイズの画用紙、付箋紙を各班に配布し、一人3枚以上の「提案のアイデア」を出させて、それをまとめさせた。なお提案については、真面目な提案であれば「理想論でよい」との指示を与えた。

10 限：これまでのワーキング成果の総合化

これまで模造紙や画用紙で整理してきたブータンについての情報、相互支援のための提案を統合して、「一つの主張」となるように「情報の総合化」を行わせた。具体的には次時に、各班が15分以内でプレゼンできるように、「主張」の組立てを考えさせた。つまりワーキングの成果としての模造紙と画用紙を活用して、主張ができるように組立てを考えさせた。

10 限～11 限：本時

本時で授業が最終回となるため、はじめに教師が、今回の授業の主旨を確認して、そのあと各班の「主張」をプレゼンさせる。

つまりまず 2011 年 3 月 11 日の東日本大震災以降、日本では「日本が、世界の国々と相互依存の関係にあるのだという認識」を持つことがますます重要になってきていることを、映像資料を活用して生徒に考えさせる。その上で、今回の授業の主旨の一つ目が、外国との接し方において、日本に足りないものを謙虚に学び、その国に不足するものを支援するという相互支援という思考法のトレーニングにあったことを確認する。また授業の主旨の二つ目が、ブータンを通して、仏教とはどういうものか、国家と国家との関係、マイノリティと国家との関係、民主化のプロセス、国際社会のあるべき姿など、歴史学習の中にでてくる多くの普遍的課題をすこしでも考えてもらうためだったことを確認する。

そして、日本がブータンから学べること、ブータンに支援できることについての主張を班ごとに行わせる。相互支援の観点での主張である。なお発表にあたっては、「はじめます」でスタート、「終わりにします」で終了というルールや、各班の発表を 15 分以内で行うことなどのローカルルールを確認した上で、6 つの班の発表を行わせる。「主張」の適切さ、プレゼンの工夫、説得力などは、あらかじめ配布した評価シートで生徒たちにも行わせる予定である。